

自己評価報告書(最終報告)

報告者

自然系コース(理科)
／寺島 幸生

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

学会等に積極的に参加し、新たな研究フィールドの開拓に努める。その中で必要であれば科研費申請を検討する。

2. 点検・評価

平成25年度科研費(若手研究(B))公募において、研究課題を申請したが、残念ながら不採択となった。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

高校教員在職中に築いた人脈を活用しながら、現職教員に対して、大学院での研究の意義および有用性を周知して大学院への進学を促す。

2. 点検・評価

本学大学院への派遣研修に興味のある現職教員に大学院パンフレットを配布し、本学の特長を説明して進学を薦めた。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

大学で学ぶ専門的知識・技能が学校での教育実践にどのように役立つのか、その有用性を意識する教育活動を行う。これまでの高校教員の経験を活かし、授業における工夫や注意点など、学校現場のニーズに即した細やかな指導に努める。

2. 点検・評価

授業では、これまでの高校教員の経験を活かし、授業における工夫や注意点などきめ細かな指導を行った。授業外でも、教員採用試験にのぞむ学生に対して、筆記試験や面接、模擬授業対策の個別指導を頻繁に行った。附属中学校での主眼教育実習を参観し、実習生の授業準備、実習授業等に対して適宜指導、助言を行った。

II-2. 研究

1. 目標・計画

理科教育を発展させるためには、教材の開発と基盤となる学術的研究とがともに欠かせないと考える。今後、物理学に関連する実験教材を開発し、教材としての有用性を実証する予定である。専門分野の研究では、溶液系の物理的性質について、実験装置の機能を最大限活用して多角的に研究する予定である。

2. 点検・評価

教育現場で有用な教材開発と教育実践に加えて、学術的基盤となる専門分野の研究を両立して行った。高校理科を対象に樹木の観察活動を実践し、その成果を学術論文(査読有)として『日本理科教育学会「理科教育学研究」第53巻第2号, pp.285-294.』(単著)で発表した。また、専門分野での研究では、これまでの溶液系の溶媒和構造と動的性質に関する研究成果をまとめ、国際会議で発表(連名)するとともに、"Solvation and glass transition in supercooled organic solutions of alkaline perchlorate and alkaline tetrafluoroborate, AIP Conference Proceedings, Vol.1518, pp.280-283 (2013)"(共著)として国際誌(査読有)に発表した。また、学長裁量経費プロジェクトに採択された「鳴門海峡の特徴的な自然環境を積極的に活用するための総合的研究」に参加し、鳴門海峡の潮流にちなんだエネルギー・環境教育教材を開発して、全国学会でその成果発表と本プロジェクトのPRを行った。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

所属するコースや委員会等において、任された職務を全うできるよう努力する。

2. 点検・評価

所属する自然生活系教育部、自然系コース(理科)および国際交流委員会等で任された職務を全うした。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

担当授業や研究活動を通して、可能な限り附属学校および地域の学校と連携し教育活動を実践する。所属する国際交流委員会において、国際交流活動の推進に努める。

2. 点検・評価

幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校の各附属学校園に計7回訪問し、各学校園の現状と今後の連携の在り方について情報交換を行った。附属小学校の第1回合同研究会(5月)に参加し、理科の教育活動に対して附属の担当教員と協議した。附属中学校の教育研究発表会(6月)に参加し、理科の研究授業および教育活動のさらなる改善に向けて協議した。徳島新聞社から依頼を受けて、全国学力テスト(理科)の徳島県の結果を分析し、その分析結果を徳島新聞紙面(2012.8.9)で発表した。徳島県教育委員会等主催の第69回科学作品展・科学経験発表会(中学校の部)(2012.11.4、徳島県教育会館)において、特別審査員として当コンクールの審査および講評を行った。また、徳島県立城南高等学校高大連携事業実験講座(2012.12.12、鳴門教育大学)において、実験講師として当該高校1年生10名対象の物理学実験を指導した。国際交流委員会委員として、今後の留学支援(受入・派遣)の在り方について所属の教育部やコースで検討し、留学生支援に関する提案、意見を取りまとめた。また、教員研修留学生研究発表会に参加した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

特記事項なし